



越中万葉のふるさと高岡の地で
第一線で活躍中の研究者による最先端の上代文学研究の成果が発表されます。
多くの方のご来聴お待ちしております。

平成18年度 上代文学学会大会 研究発表会

平成18年 5月21日(日) 午前9時30分～午後4時40分

会場 高岡市生涯学習センター4階ホール(ウイング・ウイング高岡内)

参加費 1000円(資料代。20日の公開講演会も聴講できます)

《午前の部》

家持歌の「攀」

フェリス女学院大学非常勤講師 古館綾子(司会 東京女子大学教授 鉄野昌弘)

あらたな《家持》歌 『秘蔵抄(古今打聞)』の賢しら

高岡市万葉歴史館主任研究員 新谷秀夫(司会 青山学院大学教授 小川靖彦)

歌の「類聚」と「物」の名 山上憶良の歌集編纂行為に見る歌作りへの知

首都大学東京 専任講師 猪股ときわ(司会 東京大学大学院教授 多田一臣)

《午前の部》

石立たす司 スクナミカミと常世の酒と

慶應義塾大学大学院生 森 陽香(司会 明治大学教授 居駒永幸)

『日本書紀』の引書態度について

明治大学専任助手 山田 純(司会 和光大学教授 津田博幸)

古事記歌謡物語の構造 允恭記・軽太子物語を題材として

椋山女学園大学助教授 大浦誠士(司会 東京大学大学院助教授 品田悦一)

記紀歌謡と漢籍教養 歌謡詞章の更新と読み換え

上智大学教授 瀬間正之(司会 専修大学教授 西條 勉)

